

# TEMM23

## Youth Forum

日本チーム発表



# 目次

1. TEMM23ユースフォーラムとは
2. 日本チームからの提言
3. 日中韓代表メンバーからの提言紹介
4. フォーラムを終えての感想

# TEMM23ユースフォーラムとは

## 【正式名称】

**第23回日中韓三カ国環境大臣会合ユースフォーラム**  
(TEMM23 : Tripartite Environment Ministers Meeting 23)

## 【概要】

第23回日中韓三カ国環境大臣会合の関連行事として開催される日中韓のユースフォーラム。  
**環境に関する日本の取組について発表するとともに、中国及び韓国の代表と意見交換する。**

## 【テーマ】

**Youth on Biodiversity: Power for Action**  
**生物多様性にかかわるユースたち：行動のための原動力**

【プログラム】 2023年3月29日

- ・ 基調講演
- ・ 三カ国のユース代表による発表、意見交換

# 日本代表メンバー

～参加のきっかけ紹介～



池田日陽  
早稲田大学文化構想学部  
社会構築論系（3年）

人間の活動のせいで多くの動物が絶滅の危機に瀕しているという現状を変えるために何ができるのかを模索し続けていました。生物多様性について日中韓のユースとディスカッションができる貴重な機会だと思い、参加を決めました。



大脇藍  
名古屋外国語大学  
グローバルビジネス学科  
（3年）

「環境啓発ミュージカル」に出演し、生物多様性や環境問題の発信をした経験を伝えたいという思いと、より知見を深めたいという思いで参加を決めました。



岡田若子  
帝京大学経済学部(1年)

私が興味のある貧困問題の改善には、環境問題が大きく関わっている事を知ったことから参加を決めました。



清原亜実  
慶應義塾大学法学部  
政治学科(3年)

環境問題の根源は限られた資源を公平・正當に分配できていない社会システムとゆとりのない生活だと考えます。国際会議はそのような仕組みを変革できる場であると考えたため、自身も少しでも政治の現場に関わりたくいと参加を決めました。



中村安里  
京都大学総合生存学館  
博士課程

人の健康と地球の健康は繋がっていることを実感し、プラネタリーヘルスを研究テーマとしています。生物多様性とは多様な生き物が共に生きているということ。一つでも生きものが欠けてしまえば、生態系全体に大きな影響を与えることもあります。私たちもその繋がりの一員として他の生きものを生かすような取り組みをしていけたらと考えております。

# 提案内容のまとめ

## 1. 教育機関への提案

“自分事領域を広げる機会を提供する。”

## 2. 教育機関と環境省への提案

“ユースの行動促進プログラムを普及させる。”

## 3. 環境関連大臣および全省庁の大臣への提案

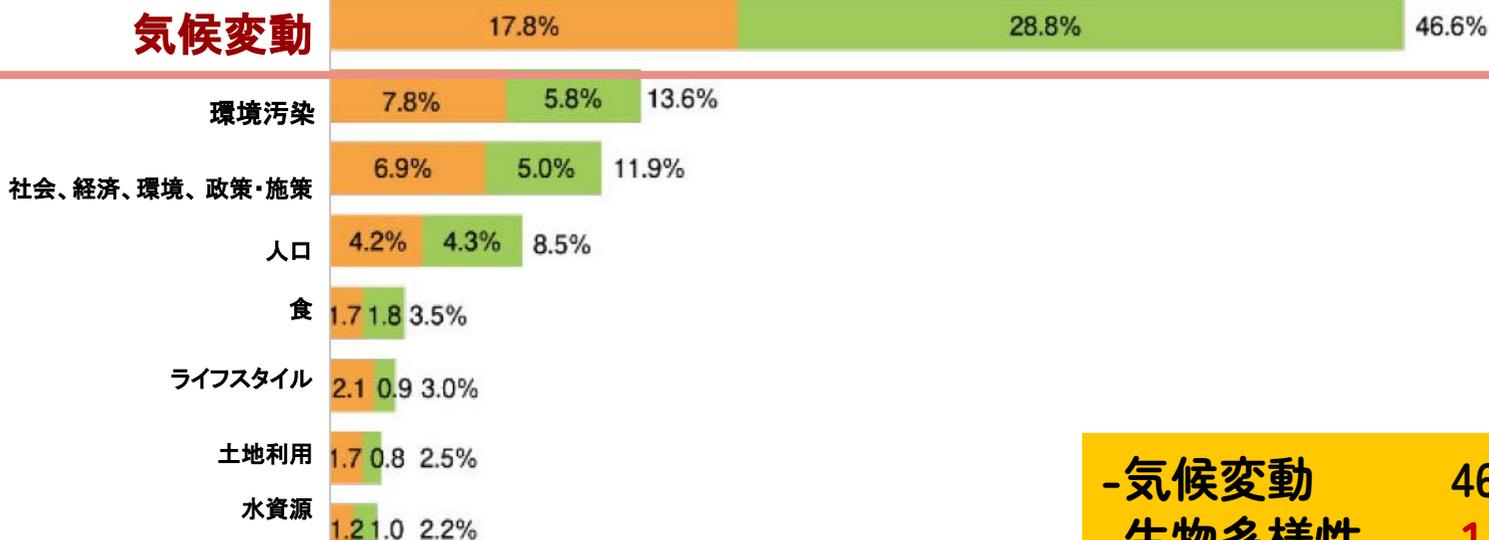
“メンター制度やクォータ制を通じて、政策決定プロセスにおけるユースの社会への影響力を拡大する。”

# 日本における生物多様性の認知度

## ●日本人の環境リスクに対する意識調査



### 気候変動



### 生物多様性



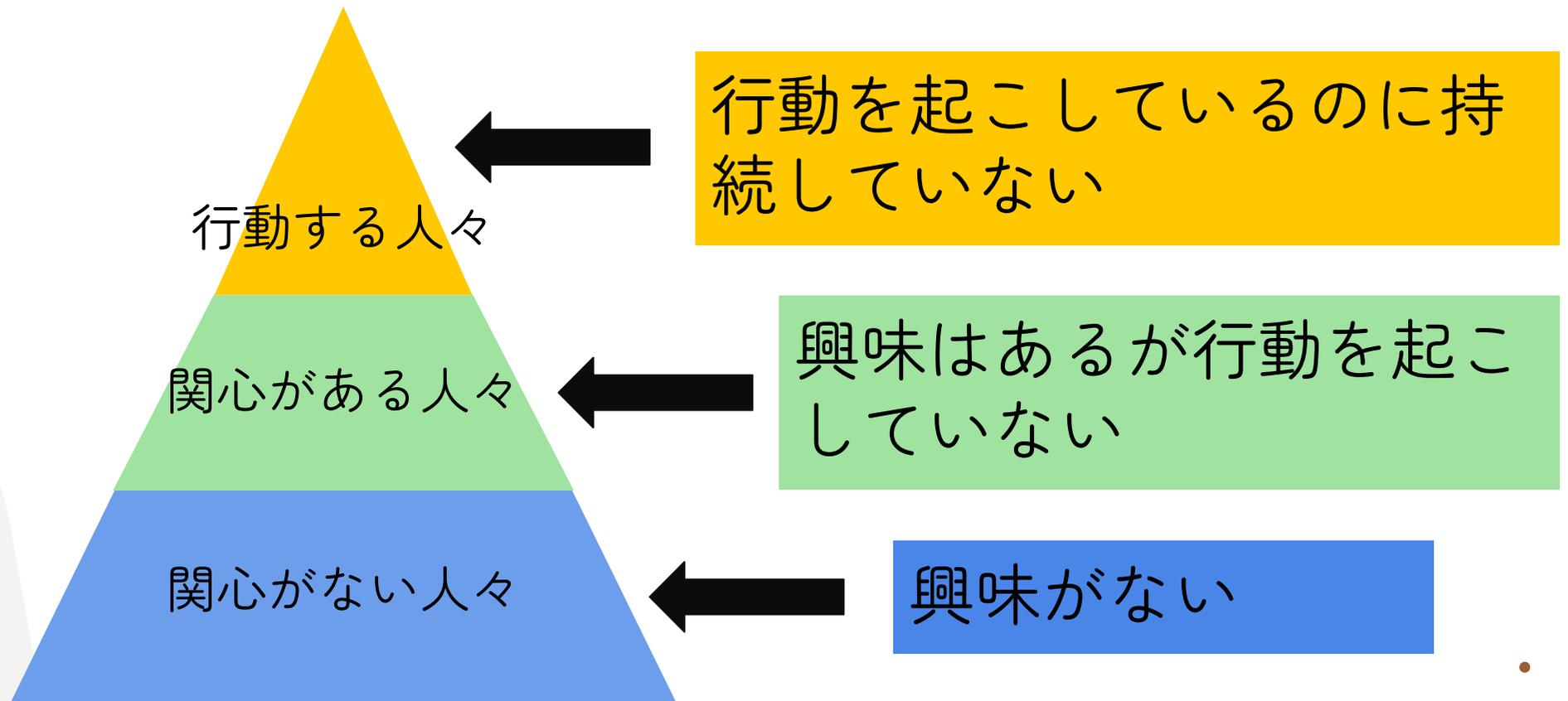
-気候変動 46.6%  
-生物多様性 1.9%

オレンジ: Z世代(18~24歳)  
緑: 大人世代(25~69歳)

Asahi Glass Foundation (2020 and 2021) Survey of Japanese people's awareness of environmental crises

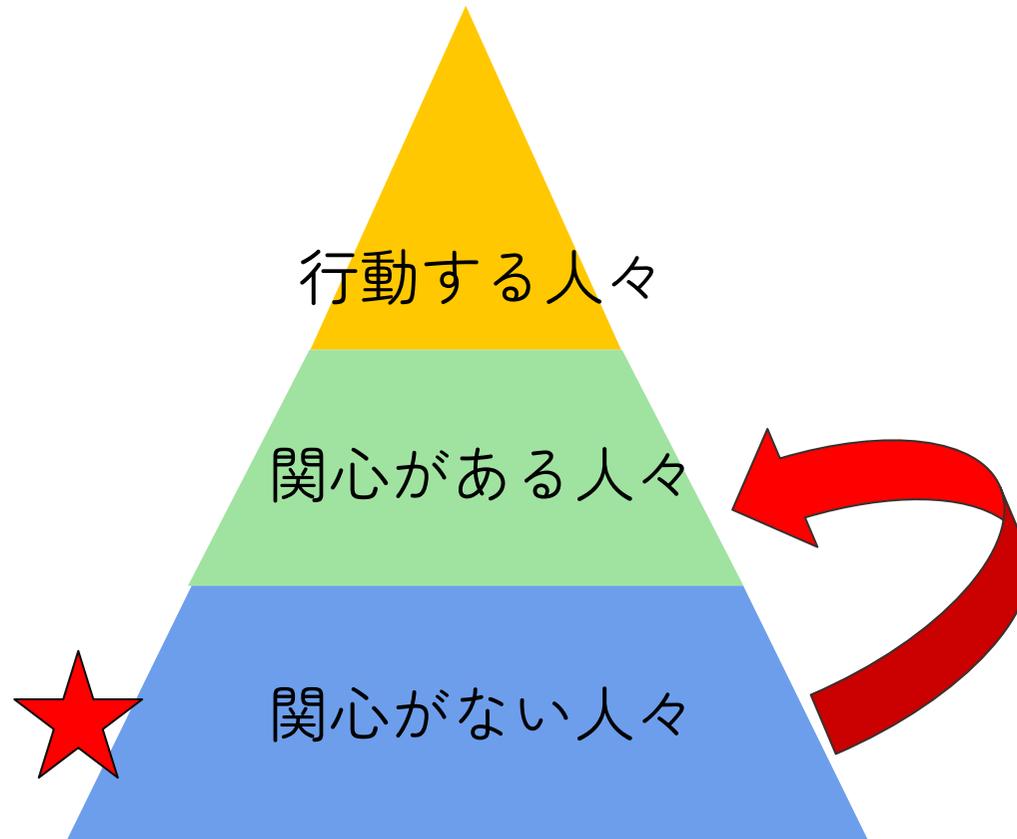
日本では、生物多様性の認知度が非常に低い。

# 行動変容モデル



# 目的①

## 生物多様性の認知度向上

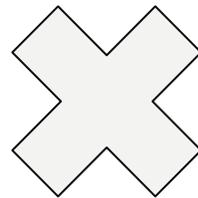


# どうすれば「関心がない人」を 「関心がある人」に変えることができるのか

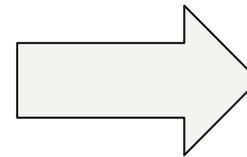
私たちの仮説

(生物多様性に興味を持ったきっかけを  
私たち5名で共有した結果)

個人の経験



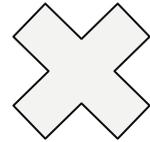
知識



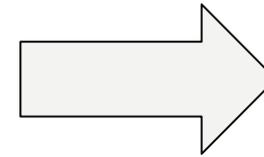
原動力

# 行動のための原動力 (日陽の例) 動物園×生物多様性

個人の経験



知識



原動力

幼稚園

～動物園への訪問～



動物園への遠足  
→動物が好きになった。



動物園の展示パネルで、多くの種類の動物が絶滅の危機に瀕していることを知った。



人間の行動を変え、環境問題を解決し、絶滅の危機に瀕した動物を保護したい。





**知識**  
小学校



**個人の経験**  
中学校



**行動のための原動力**



貧困問題について教科書で学んだ。

カンボジアに行った時、貧困問題を目の当たりにした。

環境問題は、貧困問題の解決と密接に関係している。



**生物多様性は私たちの生活の基盤なのである！**

# 行動のための原動力 (藍の例) 環境問題×ミュージカル



生物多様性について学校で習った程度の知識



きっかけ  
大学の学生の多くがコンビニ弁当やペットボトルを買っていたこと

大学に入学後、  
環境問題に関心を持つ

2019/6

インドネシア環境ユース  
海外派遣研修に参加



最終廃棄物処分場で見た光景に衝撃を受けた。

2020/2



環境啓発ミュージカルに出演

2022/2

絶滅危惧種の動物役

ツキノワグマ



ビワコオオナマズ



「知識」 × 「個人的な経験」  
～領域が広がることで関心を持てるようになる～



あなたの“自分事領域”はどこまで？

自分の領域が広がる時＝心を揺さぶられる体験

聞くだけの授業 → “知識”で終わる  
自分の肌で感じることで、アクションにつなげることができる。

# 提案1:教育機関 自分事領域を広げるきっかけを提供する

現状：教育機関が提供するもの



体験のみ（例：遠足）  
= **楽しさ**だけが残る

知識（例：授業）だけ  
= **遠い話**として認識して終わる



社会問題や環境問題を自分事化でき、  
次の行動の原動力となる。

ミュージカル x 学び



環境啓発ミュージカルへの出演  
(2022年2月)

生物多様性について学んだことを、追体験し  
家族や地域の人達と共有することができる。



例

経験

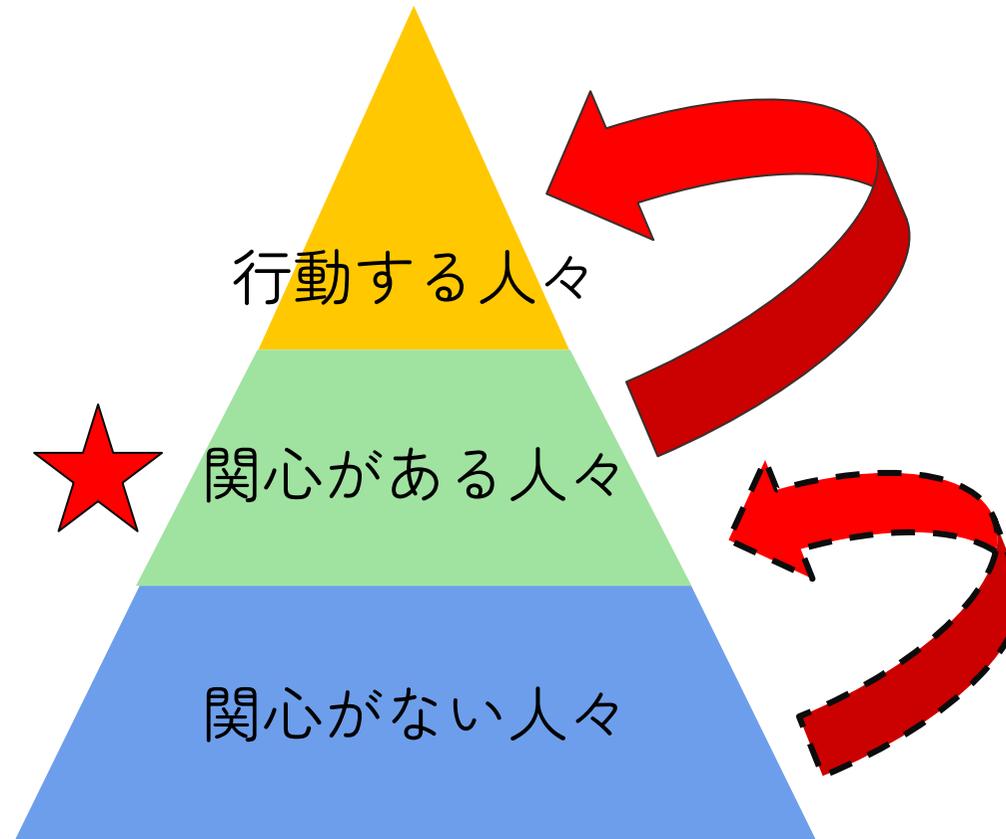


知識



## 目的②

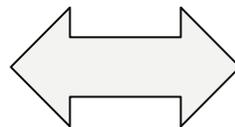
# 生物多様性の認知度向上



# どうすれば「関心がある人」を「行動する人」に変えることができるのか

ユースが行動を起こすときに障害となるもの  
生物多様性保全のために、ユースが他者に  
影響を与える行動を起こせる場が少ない。

環境問題に関心があり、  
学んでいる



行動を起こせる場がない



## 提案 2:環境省

# ユースの行動促進プログラムの普及

例)ユースを教育機関へ派遣し、生物多様性に関するワークショップを開催

## ユースの行動を促進するための コミュニティづくりと活動の場の提供

生物多様性に精通したユースのコミュニティづくり



ユースが教育機関で体験学習を行う  
プログラムを推進する。



## 提案 2:環境省

### ユースの行動促進プログラムの普及

例)ユースを教育機関へ派遣し、生物多様性に関するワークショップを開催

#### 想定される効果

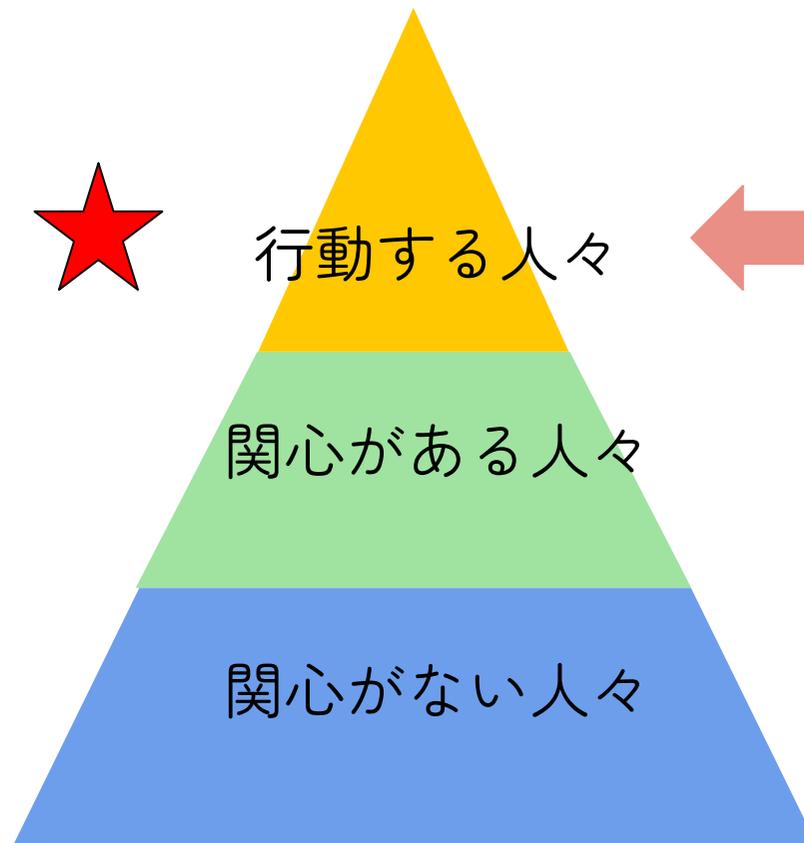
- ①教育機関側も信頼できる機関の方が受け入れやすい→ユースの活動促進
- ②教育者など大人にも知識が広がっていく(教育者の負担削減)
- ③ユースが教えることで、子どもたちの行動のための原動力をより促進できる



小学校にて

## 目的 ③

# 行動のための原動力を持続させる



← どうすれば彼らの原動力を**持続させる**ことができるのか。

# 清原亜美



知識

個人の経験

行動のための原動力

原動力が  
途絶えてしまった...

高校

高校

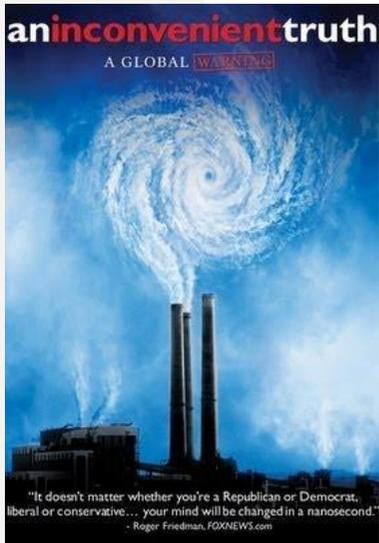
高校



数々のドキュメンタリー番組を観て気候変動問題を知った。

友だちがお弁当に手をつけずにそのまま捨てたり、無料のプリントサービスで大量の紙を廃棄するのを見て、憤りを覚えた。

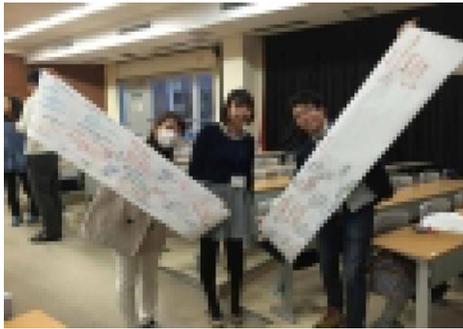
学校で食品廃棄物教育プログラムを開始し、代替食品ワークショップなどを開催するなど精力的に活動した。



草の根的な活動を経て、行動の動機は人それぞれであり、いくら啓発活動をしてても大多数の人は行動を起こさないということを学んだ。

→大学で政治学を学び始めた。

# 中村安里



**WAKATAKE**  
地球システム・倫理学会 若手部会

WaKaTaKeとは、学会に所属する若手の意向向上とつながりの創出を目的とし、月に1回、学会内外の先生方をスピーカーとしてお招きし、開催する若手部会です。

**オンラインセミナー**  
スピーカーが30分間、発表の時間をもち、その後、参加者との間で問題を深掘りし、議論を交わします。

**読書会の開催**  
不定期で、読書会を開催します。参加者の間で読書意見を共有し合うと、新しい発見が期待できます。

**各種ワークショップ**  
様々なジャンルのワークショップを開催します。新たな延長や気づきを得るきっかけを提供します。

**1月19日のオンラインセミナーご案内**  
健康を問い直す！プラネタリーヘルスと伝統医療の視点から。  
講師 **中村 安里**

福井大学医学部医学科を卒業、京都大学総合生命学専攻博士課程在学中、最新の疫学研究に従事。国際NGOにて感染症、学際的に国際NGOで感染症、災害医療に関するプロジェクトのコーディネーターに就任。現在、株式会社を立ち上げ、大学発の社会課題を解決しながら地域、医療企業、国際協力の架け橋を担うコミュニティを運営中

**完全無料**  
LINEオープンチャットにて質疑応答も可能です！  
※詳細はURLもこちらからご確認ください。

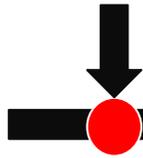
日時：2023年1月19日 13:30~14:30 (オンライン)

地球システム・倫理学会 千原南町中野 5-2-1 福井大学 大野孝夫研究室  
メディア部担当TEL: 090-2626-3988 (担当: 大北麻弓)



## 知識

医学部時代



## 個人の経験

医学部時代



## 行動のための原動力

大学院



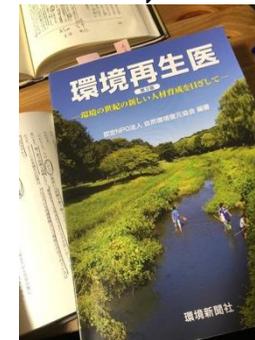
環境活動への興味は消えていない。  
しかし、社会を変革するには無力だと感じている。

災害・社会問題を学ぶ。



無力感を感じ、その後、自然界との関係の中で癒される。

人間の健康と地球の健康をつなぐ「プラネタリー・ヘルス」を自分の研究分野として選択する。



# 清原・中村にとっての課題



1.環境問題に関心のない多数派の人々が行動を起こさないことに無力感を感じ、意気消沈している。

2.自分が研究している、あるいは深めようとしている分野が、既存の社会に受け入れられていない場合、自分の考えをどのように発信すれば影響力があるのかわからず、無力感を感じることもある。



# 私たちが求めるもの

- 多数の人に**政策提言**をしていくこと。
- **私たちの意見を多数の人に伝えていくこと。**
- **斬新なもの、まだ一般に受け入れられていないものも含めて、研究・活動を共有すること。**

例) **研究会で発表して、政策を変えていくなど。**



# 提案 3

## メンター制度の導入

- 斬新でユニークな活動を自信をもって発信できるようになる。  
また、ユースが審議会等へ提案する内容を磨くことができるようになる。

## 審議会等におけるユースフォークタ制の導入

- 行動する人々の声を届けるために

# 提案3：環境関連大臣および全省庁の大臣へ 若者の社会への影響力を促進する

## メンター制度による若者のアイデア発掘のサポート

例  
環境ユースは、メンターと一緒に研究会を開き、自身の活動報告や研究報告の改善を行う。



- 生物多様性、生態系、政策提言に関するメンターによる講演会
- ユースによる自由な研究・活動報告
- 環境活動に参加する

生物多様性に具体的なインパクトを与えられるような、ユースとメンターによる研究グループを作る。

環境に良い活動が社会に広がらない理由を考察する。

活動を社会に広めるための具体的な政策提言を行う。



## 提案3 : 環境関連大臣および全省庁の大臣へ 若者の社会への影響力を促進する

審議会でのユースクォータ制を導入することにより、  
政策決定プロセスにおいて若者の意見が反映されるようにする。

### ユースクォータ制とは?

=国会や会議での若者の予約席の確保  
例) COP15



ヨーロッパでは、クォータ制が議会で実施されるのが一般的だ。

しかしながら、日本における「環境政策決定共同体」は  
政務官である。(M.Schreurs、2019年)

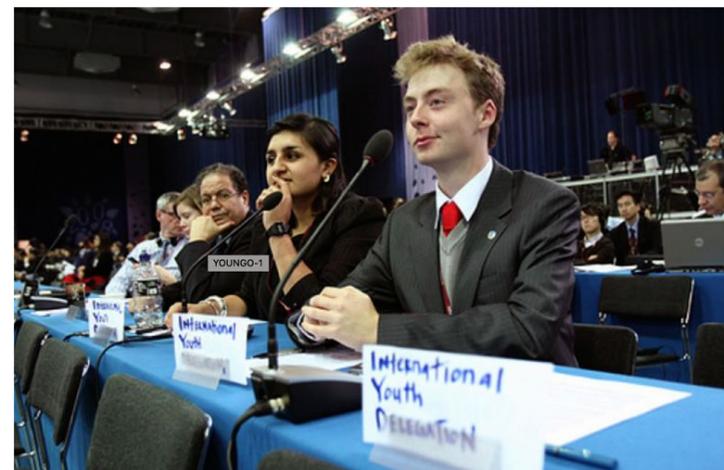
(経済政策決定共同体も同様)

民主的な議会制度を補完するため、主要な**政策決定過程に  
市民の意見を取り入れる**ことを目的に設立され、利害関係  
者の代表者・学識経験者が集まる省庁内の審議会にユース  
クォータ制を導入したい。

ユースクォータ制を導入してもらいたい  
審議会の例

### 経済産業省設置の**産業構造審議会**

- ・ 主要な経済政策を担当している
- ・ グリーンイノベーションプロジェクト  
を担当している



## 提案 3



無力感を感じる。



【メンター制度・ユースクォータ制を導入】  
主要な政策の決定において、ユースのアイデアが  
効果的に反映されるようになる。



ユースは力を得たと感じ、  
その行動は持続する。



# 提案内容のまとめ

## 1. 教育機関への提案

“自分事領域を広げる機会を提供する。”

## 2. 教育機関と環境省への提案

“ユースの行動促進プログラムを普及させる。”

## 3. 環境関連大臣および全省庁の大臣への提案

“メンター制度やクォータ制を通じて、政策決定プロセスにおけるユースの社会への影響力を拡大する。”

# 日中韓代表ユースからの提言

三カ国の提言を一部抜粋

## 1.ユースへの期待

- ・ユースの声を聞き、生物多様性の保全におけるユースの役割を国内で認識できるように、政府が制度として実践的にユースをまきこむことを期待する。
- ・ユースがより持続可能な形で貢献できるように、ユースを表彰し、行動を起こすことに興味を持たせるインセンティブや機会を設ける（対象は学生のユースグループ）。
- ・政府が国民に向けて、生物多様性に関する透明なデータを公開することを促す。
- ・環境に配慮した製品と、環境に配慮したと見せかけているだけの製品（グリーンウォッシュな製品）を見分けるための認証システムを作るよう政府に促す。

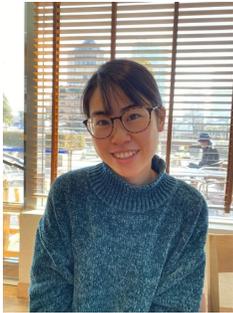
## 2.ユースの貢献

- ・ユースがGBF（生物多様性枠組）の広報キャンペーンに参加し、認知度を上げることに貢献する。
- ・率先して環境に配慮した生活を送ることで、生物多様性の保全に貢献する。
- ・食生活、持続可能な消費、交通等に関して、環境に配慮したライフスタイルを実現できるように、ガイドラインを策定する。

## 3.国際的な協働

- ・各地域のユースネットワークが交流できるメカニズムを構築する。
- ・TEMM同窓ネットワーク
- ・教育機関同士でのバーチャル交流クラスおよびリサーチグループ

# TEMM23ユースフォーラムを終えて



## 池田日陽

中国・韓国の代表の方と意見交換を行い、日本とは違う視点に気づくことができました。フォーラムまでの準備の段階も大変学びの多いもので、日本代表の仲間と熱い議論を交わすことができたのは大切な思い出です。自分の原動力を改めて確認する機会となり、環境活動に対するモチベーションを高めることができました。



## 大脇藍

事前研修から生物多様性というテーマで熱く語り合ったのがとても印象的でした。また、メンバー間との話し合いで「提言する」意味を改めて考えさせられました。中国・韓国代表からも学びと刺激を得ることができ、私も今後様々なことにチャレンジしていきたいと思いました。



## 岡田若子

同じ星に住む私達人間が抱える、共通の問題である環境問題について、海を越えて同世代の若者と繋がれた事は貴重な経験となりました。また同じ志を持つ人々に出会えた事は、今後の私自身の行動の為の原動力となりました。



## 清原亜実

国際会議で環境問題を扱う事は想像以上に難しい事だと実感しました。限られた会議の時間と、交錯する各国の目的意識の中で、準備段階での深い議論を最大限に活かす事が最大の挑戦でした。日本代表としては等身大の有意義な発表ができたことを誇りに思います。参加させていただいたことに満足してしまうのではなく、今回の貴重な経験を活かして、これからも環境問題の解決方法を自分なりに探っていきたいです。



## 中村安里

今回のフォーラムに関わる中で、政策が実際に実行されるまでのプロセスはおそらくかなり道のりがあるのだろうと感じました。その過程で誰が何を言ったか、あるいは何を提言したのか、あるいはそれによってどんな成果が得られるのかといった外に現れてきた表現ばかりに注目せず、その言葉を伝えている人がそれを言うことによって満たされているのか、あるいは何か強い思いがあるのかということに視点の移してみるようになっていたように思えます。

TEMM23

YOUTH FORUM

JAPAN TEAM

最後までご覧いただき  
ありがとうございました。

# 参考文献

一般社団法人 Green innovation | 2050年の未来をつくる、今 ([green-innovation-project.com](https://green-innovation-project.com))

旭硝子財団(2020年2021年)日本人の環境意識調査

Schreurs, M. (2003). *Environmental Politics in Japan, Germany, and the United States*. Cambridge: Cambridge University Press. doi:10.1017/CBO9780511491146